

キーワード

手話通訳、舞台芸術

研究概要

近年、聴覚障害者の社会参加の促進に伴い、さまざまな場所で手話通訳がなされるようになってきた。また、芸術活動については、2020年のオリンピック・パラリンピックに向け、多様な人々の芸術活動へのアクセシビリティの整備が進められているところである。しかしながら、聴覚障害者が芸術活動に参加する際の手話通訳は十分に整備されておらず、必要とされる専門性についても明らかにされていない。そこで、本研究では、これまで我が国で行われてきた舞台芸術の手話通訳における問題点を洗い出すとともに、先進国で行われている舞台芸術活動における手話通訳者養成ならびに実際の通訳活動の視察を通して、舞台芸術活動における手話通訳に必要な技術を明らかにする。そのうえで舞台芸術活動に特化した手話通訳の技術研修プログラムを開発し、多様な場面で活用しながら問題点等を検討することを目的とする。



平成28年度イギリス視察の様子

(左：手話通訳つき舞台演劇のステージ、右：手話通訳用ステージ拡大図)

応用例・用途

- ・聴覚障害者の芸術活動への参加促進

